

平成30年度 学力向上を図るための全体計画

奥多摩町立古里小学校

- **関係法規** 日本国憲法、教育基本法、学校教育法
- **東京都教育目標**
 - ①互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
 - ②社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
 - ③自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間
- **奥多摩町教育目標**
 - ①互いの人格を尊重し、心身ともに健康で、かつ知性、感性、道徳心に富んだ豊かな人間性を身に付け、広く国際的視野と社会に貢献しようとする意識をもった町民の育成に努める。
 - ②自ら学び、自ら考え行動する個性と創造力豊かな人間の育成に向け、学校教育・社会教育を充実し生涯にわたって学習の場が得られるよう教育行政を推進する。
 - ③町の基本構想を指針とし、長期的展望に立って教育・文化・体育等の諸施策の充実に努め、町民憲章に定める目標の実現を目指す。

【学校の教育目標】

ふるさと古里での学びを通し、豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、地域社会の一員としての自覚を深め、益々激しく変化する社会に主体的に対応できる人間を育成するため、次の目標を定める。

「いのちを大切に 共に輝き 生きていこう」

- かしこく… 学ぶ楽しさを知り、学びを生活に生かす
- なかよく… 人と心を通わせ、人のために自分の力を生かす
- たくましく…健康で丈夫な体と、健やかで豊かな心をもつ

上記三目標のうち、「かしこく」を重点目標として設定し、確かな学力をもち、課題解決に向かい、社会の発展に寄与し得る児童を育成する。

- 学校・地域の実態
 - ・過疎化・少子化傾向の中でも、近年町施策による新規転入家庭が増えている。
 - ・児童は概ね「大変素直で明るく、何事にも真面目に取り組む」ことができる。
 - ・の固定化された人間関係の中、表現力やコミュニケーション能力の向上機会が課題だったが、転入の増加により人間関係や生活習慣の構築等も課題となってきた。
- 地域の期待や願い
 - ・少子化が進む中、地域を活性化し、地域に貢献できる人材の育成
- 保護者の期待や願い
 - ・「いじめ」や「差別」等がなく、互いに助け合い自他を思いやる心の育成
 - ・変化する社会に応じた資質能力を身に付け、将来を逞しく生きる力の育成
- 期待される児童像
 - ・自己実現を目指し、自他を尊重し思いやり、自分を向上させる子

- 【各教科の指導の重点】**
- ①課題解決的な学習指導を行い、自ら学ぶ意欲と主体的な学習態度を育てる。
 - ②話し合い活動やノート指導、振り返りなど「ことばの力」を育てる指導の充実に努め、思考力・判断力・表現力等の確かな学力の定着を図る。
 - ③習熟度別少人数学習指導を通して、個に応じた指導を充実させる。
 - ④音読・暗誦・漢字・計算などの基礎的な力を伸ばし、自信をもって生きる児童を育成する。
 - ⑤表現力と創造力の向上に努め、生涯を通じ学び続ける意欲と態度を育てる。

- 【道徳教育の指導の重点】**
- ①全ての教育活動を通して、「共に生きる力」を育てる＝自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる豊かな人間性と社会性を養う。
 - ②「特別の教科道徳」の趣旨を踏まえて「考える道徳」「議論する道徳」の授業を充実させ、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を養い道徳性を醸成する。
 - ③人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を基盤に、一人一人のニーズに応じた教育を展開し、児童一人一人のモチベーション・よさの伸長を図る。
 - ④地域・保護者参加型の道徳授業地区公開講座を工夫し、家庭・地域との連携を深めて児童の心の教育の推進を図る。

- 【総合的な学習（古里（ふるさと））の指導の重点】**
- ①環境学習、福祉・ボランティアなどを題材とした教科横断的、総合的な探求的学習（過程）を計画する。
 - ②よりよく課題を解決し自己の生き方を考えることができるように、必要な知識・技能や、自ら課題を設定し情報を収集、整理分析、まとめ表現する思考・判断・表現の力等を育成する。また、互いの良さを生かしながら探求的学習に主体的・協働的に取り組む態度を醸成する。

- 【学校経営方針（授業改善推進上の要点）】**
- 授業の充実を図り児童に学ぶ喜びを味わせるとともに、学習指導要領の趣旨に基づき将来の社会を豊かに生きる上で必要な「人間力」にかかわる資質・能力を育成する。
- 小規模校の利点を生かした組織の充実を図り、きめ細かな指導に努める教師力の向上と心を込めた教育活動を工夫し、一人一人の良さを伸ばす。
- ＜基礎・基本を定着させ、自ら考え、深め合い、進んで課題を追及する児童の育成を図る＞
- ①学力調査等の結果に基づいて本プランを作成し、「主体的対話的で深い学び」を生む学習指導を進める
 - ②全教科において「課題をつかみ、自分で取り組み、学び合い、振り返る」問題解決的な学習サイクルの工夫を進め、主体的な学びの力を養う。
 - ③音読、漢字検定、学校図書、ICT等を活用し、語彙力や読解力、表現力などの言語能力を育成するとともに、話し合い活動の工夫など学び合い深め合う学習活動の充実を図る。
 - ④時程の工夫や公開授業の実施、行事等の精選により各教科等の授業時数の完全確保を図る。
 - ⑤習熟度別指導や教育支援員との連携により一人一人に応じた指導や支援を一進める。
 - ⑥授業初めの計算タイムなど習熟の場を確保し、ベーシックドリル、漢字・算数検定の活用により「読み、書き、計算」など基礎的・基本的な知識と技能の向上を図る。
 - ⑦学習評価表の作成を通し、児童の学習状況を的確に把握するとともに、児童・家庭と共有し補充的な学習指導の充実に努める。また、「学年×10分間」の家庭学習の習慣化を推進する。
 - ⑧「教室の中で話している人はただ一人」をはじめ、学習規律の徹底を図り、進んで学ぶ環境を整える。
 - ⑨体力テストの結果を分析し、授業改善や遊びの奨励などにより、学習の基盤となる体力の向上を図る。

- 【本校における学力観】**
- 自ら課題を見付け、よりよく解決していく力として
- ・生きて働く知識及び技能の確実な定着
 - ・言葉を通じた思考力・判断力・表現力の向上
 - ・生涯を通じて学び続ける意欲と態度の涵養
- 具体的には次の力を学力と捉える。
- ・漢字の力、計算の力、調べ方、まとめ方など学び続けるための基礎的な知識・技能
 - ・言葉でふりかえったりまとめたりしながら自ら考えを深めていく力
 - ・互いに学び合い、多面的に多角的に考えていく力

- 【特別活動の指導の重点】**
- ①集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮して集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、人間関係形成、社会参画、自己実現にかかわる資質・能力を育成する。
 - ②学級活動や学校行事・クラブ活動・委員会活動・縦割り班活動等様々な活動を通して、異年齢集団の中で豊かな知識・技能、思考・判断・表現力、人間性を育む。

- 【外国語活動の指導の重点】**
- 外国語担当教員を中心に児童の実態に応じALTを活用した年間指導計画を作成し担任、指導担当、中学教員等の連携を深める。
- 指導の工夫・充実により、異文化やコミュニケーションへの関心・意欲や基礎的な英語の見方・考え方、表現等についての資質・能力の育成を図る。

- 【生活指導・進路指導の指導の重点】**
- ①基本的生活習慣の徹底を図り、規律と節度ある生活を送らせるために、挨拶、外遊び、きれいな学校、学習ルールの確立を重点とする。
 - ②学校や学級の中での様々な活動を通して、自分の仕事や役割を自覚し、最後までやり遂げる指導の充実を図る。
 - ③自分や友だちのよさを知ることによって自己有用感をもち、自信をもって活動できるようにする。
 - ④教育ボランティアの方の協力を得て、地域に根ざした活動を進める中で地域を大切にする心情を培う。
 - ⑤人としての生き方、あり方について考え、自己実現を図らせるとともに、課題意識をもち、何事にも意欲的に、自信をもって行動できる児童を育成する。
 - ⑥校内におけるいじめ問題に対しては、学校いじめ対策委員会を中心にして、組織的に対応する。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内研究や校内研修の工夫	家庭や地域との連携の工夫
①全教職員が組織的に教育課程の編成に関わり、工夫・改善を推進する。 ②各教科時数を確実に確保するために、年5日間の土曜日授業実施、4日間の一学期の延長を行うとともに、月毎の時数管理を確実に行う。 ③余時数は主として国語・算数の時数に充て、指導内容の確実な定着を図るとともに、補充的な指導（夏季休業前の補習授業等）を実施する。 ④全学年において少人数指導の時間を確保し、習熟度別の学習集団を基本とした算数科の指導を展開する。	【指導内容】 ①学習指導要領に示された目標・資質・能力・内容及び児童の実態に則した指導計画の見直し。 ②「読む・書く・話す・聞く・計算する」力等の基礎学力を高める学習内容の工夫。 【指導方法】 ①授業形態・指導方法の工夫改善（一斉・少人数・グループ・個人・TT等） ②全教科への課題解決学習の導入、基礎的な知識・技能を活用・探求する力の育成。 ③スモールステップによる系統的な指導の工夫。 ④効果的なノート指導の工夫。	①各教科についての評価規準・評価基準を共通理解し、系統性のある評価を実施する。 ②一人一人の児童の学習の状況を的確に把握し、きめ細かな評価を行い、学習評価表を通じて各家庭へ通知する。そのことにより、各家庭の協力を得ながら、補充的な個別指導を実施し、確かな学力を身に付けさせる。 ③少人数指導教員や専科担当教員、教育支援員、理科支援員等を活用して、一人の児童を複数の教員で見取り、より多面的な評価ができるよう心掛ける。	①奥多摩町教育研究指定校として、過年度までの研究成果も引き継ぎ、すべての児童に学ぶ喜びを味わい、資質・能力を向上させる授業の工夫を学び合う。「総合的な学習の時間」「英語・外国語」「体育」を中心に「ユニバーサルデザイン（焦点化、視覚化、）の視点からの授業改善」に取り組む。 ②全学年で研究授業を実施し、より実践的な研究を推進する。 ③研究の成果は、研究発表会にて発表する。 ④夏季休業中に校内研究の研修会を実施し、全教職員の意識を高める。	①教育課程説明会や各学年の保護者会等を通して、教育方針・経営方針等を説明し、保護者・地域の理解を得るように努める。 ②学校便り、学年通信、HP等を活用し、情報（学習・活動の様子等）をできるだけ多く発信する。 ③土曜公開日を年間5日間設定する他、いつでも授業を参観できる体制を整え、開かれた学校づくりに努める。 ④道徳授業地区公開講座を活用・工夫し、より多くの保護者及び地域からの参加者を集め、学校教育への関心を高めるとともに、道徳教育への理解・協力を求める。 ⑤eライブラリを活用した家庭学習の推進。